

平成 26 年 1 月 31 日 目黒区障害者自立支援協議会

パネルディスカッションで出された 目黒のよいところ……

と地域課題(当事者と家族が望むこと！！)

平成 26 年 1 月 31 日(金) 6:30 から目黒区総合庁舎の大会議室で、目黒区障害者自立支援協議会の学習会イベントが開催され、140 名余りの参加者がありました。このイベントは目黒区障害者自立支援協議会を幅広い人たちに知ってもらうこと、障害者が豊かな生活を送り続けることができる地域をどのように作っていくのが多くの方たちと考えていくことが目的で行われています。

平成 25 年度は障害当事者が主人公になったパネルディスカッションを中心にイベントを行いました。肢体障害者、知的障害者、精神障害者、高次脳機能障害者、発達障害者や重症心身障害者のご家族という多様な障害を有する当事者の方々が生き生きとご自分の生活について、今後の人生等について語り合いました。

パネルディスカッションの際に当事者・家族、会場の参加者から提出されたご要望等について、まとめました。自立支援協議会としては、目黒区に要望内容を伝えるだけではなく、協議会として要望の解決に向けて、どのように関わっていくのか、何ができるのか検討していきたいと思えます。

目黒区の良いところ

目黒区役所

- ・手帳を取得し障害福祉課のサポートを受け、ケースワーカーが親身に相談に乗ってくれる。
- ・リフト付福祉タクシーの制度があり、他区より台数が多いと思う。外出時の足として助かっている。他の地域の方からも『目黒はいいね』と言われる。
- ・学童保育が充実していて障害児の受入も積極的に行っている。
- ・「点字毎日」という視覚障害者用の新聞が無料で購読できる。
- ・目黒区が保健センターで精神障害者のために SST(社会生活技能訓練)を実施している。
- ・講師を招いて様々な講習会をしてくれる。
- ・目黒区が委託している障害者就労支援センターで、就労支援サービスが受けられる。
- ・移動支援の支給時間と内容は他区よりかなり充実している。

活動場所

- ・たまごの会(地域活動支援センター)の存在が大きく保育や療育訓練、週末は余暇活動も充実している。地域の仲間との繋がれる場所である。
- ・高次脳機能障害者は、他の自治体には殆どない、「いきいきセカンド」という専門のデイサービスの施設に通所することで日中活動が保障され、以前勤務していた会社への復帰にも繋がった。

支援者

- ・知的障害者の一人暮らしだが、成年後見人制度の弁護士、通所施設のスタッフ等が色々相談にのってくれて、支援してくれるので継続できる。

地域

- ・徒歩圏内に公共機関がある。良い公園や使いやすい図書館等買い物にも困らない。

目黒区に望むこと(身体障害)

- ・これからも目黒に住み続けたい。家族と同居だが、高齢で無理できないので、長時間派遣可能な重度訪問介護のヘルパーの時間数を生活に必要なだけ確保してほしい。
- ・病院入院時もコミュニケーションの問題や介助が難しい人には、必要に応じて普段の生活を知っている慣れたヘルパーの派遣を認めてほしい。
- ・あいアイ館の個別訓練が受けられなくなったので、今は機能訓練 A コースを受けているが自分の状態にあったりハビリを受けたい。
- ・介護保険支給対象となっても、これまでの生活(障害者総合支援法内の支給サービス)が途切れないようにサポートするシステムを整えてほしい。

目黒区に望むこと(障害児)

- ・放課後等デイサービスが現時点で 1 か所もない、今年設置されるようだが肢体不自由児も受入対象としてほしい。移動支援を利用しているが、長時間の外出は負担が大きく困難である。
- ・重症心身障害児で医療的ケアが必要な児童の行き場がない、学校も行けないので毎日 24 時間家族が介護している。医療的ケアのない重心も児童発達支援等のサービスが利用しづらい状況にある。重症心身障害児は人数が少ないということなのか、他の障害の人と比べて利用可能なサービスが少ないのではないか。
- ・たまごの会の肢体不自由児版の地域活動支援センターを設立してほしい。
- ・早期から療育や子育ての支援者や教育と福祉の橋渡し役が必要、行政の縦割り制度を補うために民間のサポートも必要である。

目黒区に望むこと(障害児)

- ・放課後等デイサービスが現時点で 1 か所もない、今年設置されるようだが肢体不自由児も受入対象としてほしい。移動支援を利用しているが、長時間の外出は負担が大きく困難である。
- ・重症心身障害児で医療的ケアが必要な児童の行き場がない、学校も行けないので毎日 24 時間家族が介護している。医療的ケアのない重心も児童発達支援等のサービスが利用しづらい状況にある。重症心身障害児は人数が少ないということなのか、他の障害の人と比べて利用可能なサービスが少ないのではないか。
- ・たまごの会の肢体不自由児版の地域活動支援センターを設立してほしい。
- ・早期から療育や子育ての支援者や教育と福祉の橋渡し役が必要、行政の縦割り制度を補うために民間のサポートも必要である。

目黒区に望むこと(知的・発達障害)

- ・できるだけ仕事に出たい。しいの実社の就労継続支援B型に通い続けたい。
- ・世話になった(数少ない親族で高齢の)おばさんの面倒はみたいと思っている。
- ・目黒に住み続けたい、24時間体制で安心して生活できるように障害特性を理解している人の支援がほしい。
- ・生活能力向上のための訓練の場が必要である。
- ・本人の特性を理解してくれる専門性を持つスタッフの下で生活、就労できる場がないことに困っている。

目黒区に望むこと(精神障害)

- ・精神障害者の福祉施設(グループホーム、就労継続支援B型事業等)を増設してほしい。
- ・統合失調症を若い頃に発症し心肺機能の弱さ等があり訪問看護の役割が大きい中、看護者との相性の問題があっても相談する場、相手がわからない、周知されてない。
- ・精神障害者の支援施設が少ない地域活動支援センターも2か所のみで選択範囲がせまく利用できなくなったり合わなかったりすると行き場がなくなる。
- ・将来を考えると、経済的な保障も考えてほしい。

目黒区に望むこと(高次脳機能障害)

- ・体力をつけるためにトレーニングしたいが身近に安価で一人で使える施設がない。
- ・就労の場、施設がない。高次脳機能障害者が就労訓練を受けられる場が必要である。目黒区管轄の就労の場、施設があるとよい。
- ・手帳が精神なのであいアイ館が利用できない。実態に見合った利用ができるようにしてほしい。

目黒区に望むこと(視覚障害)

- ・(会場からの当事者の意見) 地デジ対応ラジオを支給対象にほしい。震災等有事の際に周囲の状況が把握できないため。視覚障害者の当事者団体がない…

目黒区に望むこと(家族支援)

- ・家族の不安をサポートする民営サービスと行政が連携することが必要である。
- ・レスパイトを目的としたサービスや利用できる機会が少ない、短期入所施設の床数や日中活動場所が不足しているので充足を望む。
- ・レスパイト目的のヘルパー派遣(居宅)を認めてほしい。特に重症心身障害児者や重度自閉症等の重度障害者。

区に望むこと(共通重要事項)

- ・地域住民が障害者を正しく理解できるような地域を啓発する活動の機会があるとよい。
- ・区の施策として弱いと思われる重症心身障害児者の通所施設、在宅福祉サービス等の関連施策を整備・充実してほしい。発達障害者の支援システム等がないので、検討してほしい。
- ・支援者(介護職、看護職等)の増員と質の向上が必要である。
- ・タクシー券の支給額が減額されてしまったので増額してほしい。
- ・親亡き後を考えると生活保障の問題が不安である。
- ・受けたいサービスを自分で申請しないといけないがサービスにより窓口が異なる等煩雑である。全てのサービスを一つの窓口で申請できるようなシステムがあるとよい。
- ・地域の課題の多さ、それらが変化していない事こそが課題である。
- ・支援体制が当事者や家族に周知されてない、多くの人を知る機会や広報媒体が必要。
- ・自分の能力を生かし生活や就労できる場が必要。施設授産品を充実し販売することで社会に認められ当事者の自信につなげていけるような支援が必要。
- ・各種障害特性による当事者それぞれの生活問題を知ることが大切である。障害による隔たりがなく、三障害全てに対応できることが求められている。
- ・地域に色々な人が生活していることを知ってもらう機会となるとよい。

このまとめは、今回のパネルディスカッションの当事者の方の発言を中心としたものです。まだまだ他にも要望や意見は沢山あります。私たち目黒区障害者自立支援協議会は、今後も幅広い障害者、家族、支援者等の方たちの意見や要望をまとめる中で、障害者が住みやすい目黒区について考えていきたいと思えます。